



〈雑録〉ペイン關税法ヲ論ジテ其改正問題ニ及ブ(5)

松井, 啓介

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 11(6):967-979

(Issue Date)

1911-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051803>



雜 錄

ペイン關稅法ヲ論ジテ

其改正問題ニ及ブ (其五)

商學士 松井啓介

第二 關稅改正問題

(一) 關稅改正ノ目的

民主黨が如何ナル目的ヲ以テ關稅改正ニ從事スルヤニ至リテハ蓋シ一言ニシテ盡スベカラズ實ニ地方的利害關係ノ存スル所頗ル重大ニシテ一黨ノ政綱モ之レガ爲メ屢々犧牲ニ供セラレ決シテ統一的ノ宣言ヲ發表スルコト能ハザレバナリ。(註)然レドモ民主黨中公平ナル有力者ノ發表セル意見ヲ總合シテ之レヲ見レバ彼等ハ關稅ヲ以テ一ニ收入ヲ圖ル手段トシ各稅目毎ニ修正ヲナサズシテ關稅全體ノ改正ヲ以テ其目的ヲ達セ

ントスルナリ。

(註)ルイジアナ州及ビフロリダ州選出兩院議員ナル民主黨ノ如キ保護貿易ヲ主張シ從來無稅若クハ低稅ナリシ地方的貨物ニ對シテ高キ保護稅ヲ課スベキコトヲ主張シテ止マズ。即チルイジアナノ民主黨ハ砂糖ノ保護稅ヲ唱導シフロリダノ民主黨ハ棉花ニ課稅スベキヲ要求シ又或ハ北カロリナ州ヲ中心トスル諸州ニ於テモ木材ニ對シテ最高稅ヲ賦課スベキコトヲ希望ス。

共和黨モ亦關稅改正問題ニ關スル意見地方的利害關係ニヨリテ同ジカラザルモ大體ニ於テ共和黨ハ關稅ヲ以テ主トシテ保護ヲ圖ル手段トシ關稅全體ノ改正ヲナサズシテ各稅目毎ニ修正ヲ加ヘ以テ其目的ヲ達セントス。

サレバ兩者ハ其根本觀念ニ於テ相容レザルノミナラズ一方ハ全體ノ改正ヲ主張シ他方ハ一部ノ修正ニ止メントスルニ於テモ異ナレリサレド實質的關稅ノ低減ヲナサントスル點ニ於テ兩者其歸ヲ一ニス。然ラバ如何ナル程度迄其關稅ヲ輕減セントスルヤ。

(二) 關稅改正ノ方法

民主黨ハ何等ノ調查機關ヲ經ズシテ收入主義ヲ達セントスルモノニシテ共和黨ハ之レニ反シテ關稅調查局ヲ經テ眞正保護主義ニ基キ部分的修正ヲ行ハントス。サレド兩黨ハ孰レモ實質的輕減ヲ圖ラントスルモノニシテ所謂輕減ハ輕減ナリ。(lower duties are lower duties)

民主黨ハ飽ク迄急進的ニシテ現行關稅率ヲ大ニ輕減センコトヲ宣言ス。然レドモ之レ言フハ易ク行フハ至難ナルノ嫌アルヲ免レズ。唯單ニ輕減スベシト云フハ甚ダ容易ナルモ具體的成案ヲナスハ至難ノコトナレバナリ。民主黨ガ昨秋ノ選舉場裡ニ於テ試ミタル關稅ノ意見ニ徵スルニ完全ナル而モ理論的ナル成案ヲ有セザルモノノ如シ。其急進的論者ハ直ニ保護關稅ヲ撤廢シ歲入關稅ヲ主張シ穩和的論者ナル彼ノウキルン博士(次期大統領ノ候補者タルベキプリンス・ト・大學總長)ノ綱要ニツキテ見ルモ要スルニ

課稅品目ハ生活必需品ヲ避ケ人民ノ負擔ヲ苛重ナラシメズシテ多大ノ收入ヲ圖ルコトヲ得ベキ稅目ヲ選擇シ漸次總テノ關稅ヲ輕減シ以テ財政上ノ必要ニ應ズベキ歲入關稅トナサントスルニ在リ。之レヲ要スルニ民主黨ハ生活必需品ハ之レヲ無稅トナシ又一般消費者ノ利益ヲ計ランガ爲メニ比較的高率ナルモノハ之ヲ低減センコトヲ期シ保護稅ノ必要ナシト主張スルニアルモ無稅ハ收入ノ皆無ヲ證スルモノニシテ低率ハ收入ノ減少ヲ來スベキナリ。孰レモ收入關稅ノ觀念ト相容レザルヲ知ルベキナリ。尙ホ晩近米國ノ幾多ノ產業ハ保護關稅ニヨリテ大ニ其面目ヲ改メタルヲ認ムルモ產業ハ大體ニ於テ其關稅ノ必要無キ迄ニ達シタリトハ信ズルコトヲ得ズ。保護ノ程度厚キニ過グルモノアルハ事實ナルモ之レヲ以テ全然其保護ノ必要無シト云フベカラズ勿論今ヤ米國ニアリテハタウシツグ氏ノ云フガ如ク幼稚產業ヲ保護スベキ場合少ナク關稅ノ多

クハ其度ヲ超ユルモノアルモ之レガ爲メ保護關稅ヲ撤廢セントスル民主黨ノ主張ノ可ナル所以ヲ知ラザルナリ。現今輿論ハ緩和的改正ニ在リ決シテ保護主義ヲ撤廢シテ歲入主義ヲ採用セントスルモノニアラズ。其ノ要ハ其保護ノ程度ヲ緩和スルニ在リ。假令保護主義ヲ廢シテ主トシテ收入主義ニ代ヘントスルモ二ツノ衝害アルヲ知ラザルベカラズ。第一、何人ト雖モ關稅一大變化ヲ完成セシムベキ十分ナル資料ヲ有セザルコト。第二、民主黨ハ之レガ實行ニ當リテハ其主義主張ト全然相違ヲ來シ共和黨同様所謂相互的結託ヲナシテ到底其實ヲ舉グルコト能ハザルベキナリ。

サレバ民主黨ノ主張ニカ、ル改正方針ノ如キハ根本思想竝ニ其方法ニ於テ不完全ナリト云ハザルベカラズ。假令民主黨多數ヲ占メテ其主義ヲ遂行セントスルモ其目的ヲ達スルコト能ハザルヤ火ヲ觀ルヨリモ明カナリ。

關稅關稅ニ關スル一九〇四年ノ共和黨ノ政綱ヲ見ルニ保護關稅ハ其貨物ノ内國ト外國トノ生産費ノ差額ヲ以テスルニアリタリ。然レドモ當時世人ノ注意ヲ喚起スルニ至ラザリキ。後一九〇八年ノ政綱ニ於テ其生産費ノ差額ニ加ノルニ米國ノ製造工業者ノ相當ノ利潤ヲ以テシ其面目ヲ新メタリ。所謂真正保護主義 (true principle of protection) ヲ標榜セリ。是レ一九〇八年——一九〇九年ニ亘リテ關稅論ノ焦點トナリテ遂ニ實行ノ緒ニツキタルモ正確ナル生産費ニツキ調査不完全ナリシ爲メ之ヲ實現スルコト能ハザリシガ現今之レヲ以テ關稅問題ニ最後ノ解決ヲ與ヘントシ朝野ノ議論ヲ釀シツ、アリ。

此ノ如キ真正保護主義ハ人心ヲ收攬セントスル穩當ナル主義ノ如ク見ユルモ異常ナル結果ヲ生ズル事ナキヲ保スベカラズ。一見何等ノ恩惠モ不當ノ保護ヲモ與フルコト無ク單ニ内外ノ生産事情ヲ同一ナラシムル如ク見ユルモ理論上外

國貿易ノ單純ナル禁止ニシテ而モ完全ナル港門ノ閉塞ナリ。若シ生産費ノ差額ニ相當ノ利潤ヲ加ヘタル關稅ニヨリテ内國生産者ヲ確保セバ天下何物カ成ラザラン。タウシツグ氏ガ「此ノ主義ヲ遂行セバ如何ナルモノト雖モ國內ニ生産シ得ルニ足ルベキ高度關稅ノ意ニシテ國際貿易ハ爲メニ停止スベキナリ」ト論ジタル所以ナリ。

次ニ眞正保主義ニヨリテ労働者保護ノ目的ヲ達セントスルモ之レ亦謬論タルヲ免レズ。最モ普通ノ事實ニシテ保護論者ノ忘却スル點ハ高賃銀ハ生産品ノ高價ヲ意味スルモノニアラザルコト之レナリ。此ノ生産費トハ勿論賃銀ノ意ナリ。低廉ナル勞銀ニヨリテ生産セラル、外國貨物ニ對シテ保護スルニアラザレバ米國ノ高賃銀竝ニ労働者ノ生活狀態ヲ保全スルコト能ハズトハ米國保護論者ノ多クノ主張スル所ナリタウシツグ氏之レヲ評シテ「斯クノ如キ保護論者ハ高賃銀ハ必然高價ヲ意味スルモノト信ズルモノナリ。

眞正賃銀 (real wages) ノ一般ニ高キハ労働效程ノ一般ニ多キニ因ルナリ。此ノ如キ效程ノ存スルアラバ高賃銀ハ關稅ニ關係ナク繼續スベシ然レドモ之レ保護論者ニ取リテ了解スルコト能ハザル論旨ニシテ到底彼等ノ蒙ヲ啓クコトヲ得ズ」ト云ヘリ。蓋シ其要ヲ盡シタルモノト信ズ。然レドモ茲ニ注意スベキハ労働效程ノ問題ナリ。ワトソン氏ノ調査セシ如ク支那ノ労働賃銀ハ米國ニ比シ十五分ノ一ニ過ギザルモ其效程ハ九割ナリトセバ假令米國ノ賃銀ガ高ク其ノ效程ハ絶對的ニ太ナルモ相對的ニ於テハ支那ニ比シ米國ノ労働效程ハ少ナリト云フコトヲ得ベシ。故ニ低廉ナル賃銀ニヨリテ生産セラル、外國貨物ニ對シテ眞正保護主義ヲ主張スル者アルハ決シテ理由ナシト云フベカラズ。故ニ労働者保護ノ謬論ナリトスルガ爲ニハ純理上其前提トシテ米國ノ労働效程ハ絶對的ニモ相對的ニモ大ナルコトヲ要ス。然ルニ實際ニ於テハ労働效程ヲ度

外視シテ唯外國ニ比シ賃銀ノ高キヲ理由トシテ關稅ヲ高メンコトヲ期ス。故ニ米國ガ或ル產業ニ不利益ナル事情ノ存在スルニ從テ益々其保護關稅ヲ高ムルノ必要ヲ生ズルナリ。要ハ保護主義ノ貫徹上其效程ニツキ特ニ注意シ米國ニ取リ有利ナル產業ニ向テ之レヲ實行スルコトヲ要ス。

上ノ如ク論ジ來レバ眞正保護主義ヲ實行スル場合殆ンドナキガ如クナルモ亦正當ナル場合ナキヲ得ズ。即チ正當ナル場合トハ關稅ガ生産費ノ差違ヲ同一ナラシムルニ足ルヨリモ多キニ過ダル場合之レナリ。米國現行關稅制度ニ精通セル者ハ其關稅率ノ多クハ超過保護稅(生産費ノ差額ニ相當ノ利潤ヲ加ヘタル稅率以上ニ高キモノ)ナルヲ認メザル者ナカラン。此ノ如キ意味ニ於テ農產物食料品等ノ稅率ハ無意味ニシテ當然無稅若クハ減稅セザルベカラズ。彼ノ「トラス」ニ反抗スル者口ヲ極メテ保護關稅ヲ非難シ

不當ナル高率ハ內國生産者ニ不當利得ヲ與フルモノナリトナス。「トラス」ノ支配下ニ在ル幾多ノ貨物ハ此ノ意味ニ於テ減率若クハ無稅タラザルベカラズ。保護關稅ハ内外國ノ生産費ヲ同一ナラシムル程度迄高キヲ要スルモ決シテ此ノ程度ヲ超ユベカラズ。故ニ之レヲ眞正保護主義ト云ハンヨリ寧ロ非超過保護主義ト云ハ其眞旨ヲ明カニ觀念スル事ヲ得ン。サレド超過關稅ニヨリテ產業ヲ發達セシメ延イテ各當業者間ニ競爭ヲ生ゼシメ其貨物ノ價ヲ低廉ナラシムル事ヲ得バ保護ノ目的ハ完成スル事ヲ得ベキモ今ヤ米國ニ於テハ此ノ如キ事例極メテ少ナク超過關稅ニヨルノ結果一部製造業者殊ニ「トラス」ノ私利ヲ増大ニシ物價ヲ高メ一般消費者ノ負擔ヲ苛重ナラシムルモノナリ。故ニ眞正保護主義ノ主タル目的ハ實ニ此ノ如キ現行超過關稅ヲ輕減シ科學的關稅ノ基礎ヲ確立スルニアリテ之レニヨリ輸入ヲ禁止セントスルニアラズ。換言セバ

本主義ノ遂行ハ理論上外國貿易ノ停止ニシテ且勞働者ヲ保護スルモノニアラザルモ實際上現行關稅ノ多クヲ減稅若クハ無稅トナサントスルニ在リ。然ラバ之レヲ實現センニハ如何ナル方法ニヨルベキヤ。蓋シ專門家ヲ以テ組織スル永久の關稅調查機關ノ指導ニヨリ部分的關稅改正ヲ爲スノ外他ニ良策ナカルベシ。之レ實ニ共和黨ノ論旨ナリ。

以上之レヲ要スルニ現今米國ニ於ケル關稅改正問題ニ新面目ヲ呈スルモノハ(第一)保護主義ニ對スル理論ノ明確トナリタルコト(第二)永久のナル關稅調查機關ノ設立ニ關スル議論ノ旺盛ナルコト之レナリ。今更ニ一步ヲ進メテ現今米國ニ於ケル關稅調查機關ノ狀況ニツキ述ベントス。

(三) 關稅調查機關

一九〇九年九月大統領タフト氏ハ關稅調查局ヲ設置シテ三名ノ委員ヲ任命シ拾五萬圓ヲ其經

費ニ充テ以テ同局ノ研究ニヨリ對外通商諸國ニ最低稅率ヲ許容セリ。後四月上旬大統領ハ同局ヲシテ内外國ノ生産費ノ調査ヲ開始セシメタリ其目的トスル所ハ現行關稅率ヲ慎重公平ニ審査シ改正ヲ要スベキ點アリヤ否ヤヲ攻究スルニアリ。五月同局經費トシテ五拾萬圓ノ支出ノ件ノ議會ニ提出サル、ヤ再ビ同局ニ就キ議論ヲ生ジタリ。然レドモ從來ノ主張ト全然異ナル新現象ノアラハレタルヲ知ラザルベカラズ。即チ當初同局ノ設置ニ反對ナリシ者ハ一變シテ首唱者トナリ。同支出金ニ賛成セシコト之レナリ。サレド同局ニ必要ナル證人ヲ召喚セシムル如キ或ハ其提出資料ニ宣誓ヲナサシムル如キ或ハ又直接當業者ヨリ證據事實ヲ蒐集シ得ルガ如キ立法上ノ權力ヲ與フルコトヲ肯セズ。其結果此等ノ權力ヲ認メザリシモ六月二十五日該支出ノ件ハ議會ヲ通過セリ。而シテ同委員ハ大統領及大藏大臣ノ監督ノ下ニ主トシテ國內ト國外トニ於ケル

生産費ヲ比較研究シ現時國內企業家が占メツ、

アル利潤ノ過多ナラザルヤ否ヤヲ檢シ以テ稅率
高下ノ標準ヲ發見センコトヲ期セリ。委員長エ
メリー教授ハ昨夏歐洲ニ渡リテ獨佛埃諸國ニ於
ケル關稅調查局ノ制度ヲ取調べ委員レイノルド
氏ハ同教授ニ隨行シテ生産費ノ研究ヲナシ統計
學者ストーン氏ハ工業統計研究ノ爲メ埃國ニ渡
リ其他ノ局員モ亦國內各種產業ノ狀況ヲ研究調
査セリ。本年三月迄同局ハ(第一)藥品及其他化
學品(第二)羊毛及毛織物(第三)木材「バルブ」及
印刷紙ノ三大稅目ニ就キ專ラ其研究ノ歩ヲ進メ
タリ。

幾多ノ論者中ニハ此等ノ調查研究ニ伴フベキ
幾多ノ困難ヲ認メ調查局ハ全然不成效ニ終リ眞
正保護主義ノ如キ必然失敗ニ歸スベキモノナリ
ト豫測スル者アリ。今左ニ其理由トスル所ヲ述
ベン。

(第一)内外國生産ニ關スル正確ナル統計ヲ得

ルノ困難ナルコト。

(甲)正確ナル生産費ヲ知ルコトハ單一稅目ニ
ツキテ見ルモ容易ナル業ニアラズ。況ンヤ同一
稅目ニツキテモ各國ニヨリテ其事情ヲ異ニスル
ノミナラズ。各々其生産費ヲ異ニスルニ於テオ
ヤ。

(乙)生産者ハ常ニ其生産費ヲ知ラル、コトヲ
快トセズ。之レ自家ニ不利益ナルコトノ生ゼン
コトノ恐ヲ抱クヲ以テナリ。

(第二)若シ關稅率ヲ生産費ニヨリテ定ムルト
キハ其生産費ニツキ變化ヲ生ジタルトキハ其稅
率モ亦變更修正スルノ必要ヲ生ジ爲メニ其變化
ノ起ル度毎ニ之ヲ修正セザルベカラズ。此ノ如
キ關稅率ノ不確定ハ產業界ニ惡影響ヲ及ボスモ
ノト云フベシ。

(第三)眞正保護ヲ實行センガ爲メニハ各國ニ
對シテ夫々異ナル關稅率ヲ設クルノ必要ヲ生ズ
ベシ。然レドモ此ノ如キ關稅制度バ複雑ヲ極メ

其事業ノ至難ナル到底筆端ノ及ブ所ニアラズ。假令之レヲ實現スルコトヲ得ルモ外國政府ノ反感ヲ招クハ勿論不當ナル區別的取扱ヲナスモノトシテ不平怨嗟ノ聲ハ停止スル所ヲ知ラザルベシ。

(第四)米國ハ其他廣大ナルヲ以テ運賃率ハ常ニ貨物ノ上ニ影響ヲ及ボスヲ以テアル土地ノ生産費ヲ基礎トスル關稅ハ他ノ土地ノ不滿ヲ招クベク其結果ハアル地方消費者ノ不平ヲ來スカ或ハ他ノ地方ノ消費者ノ攻撃ヲ受クルカ若クハ其兩地ヨリ不平不滿無キヲ保シ難シ故ニ此ノ如キ制度ハ廣大ナル國ニ於テハ概シテ満足ヲ得ルコト大ニ疑無キヲ得ズ。

(第五)此ノ外各種ノ困難ナル理由ノ伴フベシト雖モ今次ニ其重要ナルモノニツキテ云ハン。

(甲)自由貿易論者ノ反對。理論上自由貿易ヲ信ズル者ハ當然此ノ如キ保護制度ニ反對スベシ。何トナレバ之レ毫モ自由貿易主義ノ容ル、

ベキ餘地ナキヲ以テナリ。其故若シ米國ニ於テ自由貿易思想ノ優勢ナルニ至ランカ此ノ如キ保護制度ハ全ク地ヲ掃フニ至ルベシ。

(乙)政治家ノ反對。現今行ハル、關稅上ノ相互結託ニヨリ各自選舉者ニ有利ナル關稅ヲ定メ以テ人望ヲ集中スルガ如キ劃策ハ全然不可能タルニ至ラン。各種農産物ニ對スル無意味ノ關稅ニヨリテ農業者ノ爲メヲ圖ルガ如キハ最早之ヲナスコト能ハザラン。之レヲ要スルニ各種ノ政治上ノ行動ニ最後ノ致命傷ヲ與フベシ。此ノ如キ事實ヨリ觀ジ來レバ議會ニ於ケル政黨ハ眞正保護主義ヲ承諾スルカ否カハ頗ル疑問ナリ。彼等ハ専門家ノ無偏無黨ナル委員ヲシテ材料ノ蒐集調査ヲナサシムルコトヲ欲セザルベシ。若シ議會ガ其實權ヲ握ルニ至ラバ調査委員ノ意見ノ如キ無意味ニ終リ政治上ノ壓迫ニヨリ關稅ハ及ビ政黨ノ犠牲トナリテ其黨ノ必要ニ應ズベク茲ニ於テカ眞正保護主義ハ消滅セン。

(丙)被高保護者ノ反對。非常ナル保護ヲ受クル利害關係者モ亦異議ヲ唱フベシ。彼等ハ過去五十年間最高度保護關稅ニ浴スルヲ以テ其利益ヲ放棄スルコトヲ好マザルノミナラズ。生産費ノ差額以上幾分ノ關稅(即チ超過保護稅)ニヨリ其安全ノ保障ヲ得ンコトヲ主張ス。故ニ自己ノ生産費膨脹スルカ若クハ外國競爭者ノ生産費減少スルガ如キコトアラバ十分ナル保護ヲ受ケザルヲ理由トシテ調査委員ニ關稅率ノ引上ゲヲ求ムベク若シ委員調査ノ結果關稅ノ引下ゲトナラバ之レヨリ生ズベキ損害ヲ理由トシテ苦情ヲ訴ヘン。サレバ被保護者ハ安全ナル保障ヲ理由トシテ更ニ稅率ノ引上ゲヲ主張スベク遂ニ其保護ノ要旨ハ全然廢類ニ終ルベキナリ。

(第六)所謂眞正保護主義ニヨリ關稅率ノ改正ヲ主張スル者ハ米國製造工業者ノ受クベキ相當ノ利潤及ビ其範圍ヲ定ムルコトヲ要ス。此ノ結果總テノ保護ヲ受クル産業ノ利益ハ専門家ノ左

右スル所トナリ産業ノ干渉ヲ喜バザル者ハ勿論高度保護ヲ受クル利害關係者ハ之レニ反對ヲ稱フベク到底本主義ヲ遂行スルコト能ハザルベシ。(註)

(註)ワイリス教授ハ左ノ如キ見解ニヨリ眞正保護主義(生産費主義)ニ反對セリ。

(一)實際ニ於テ生産費ヲ知ルコトハ不可能ナリ。調査委員ハ製造業者若クハ生産者ヨリ生産費明細表ヲ要求スル權力ナク假令此ノ如キ權力ヲ有スルトスルモ信賴シ得ベキ統計表ヲ得ルコト能ハザルノミナラズ諸外國ヨリハ到底之等ヲ蒐集スルノ方法ナシ。

(二)假令内外各種製造業者ニシテ其帳簿類ノ檢閲ヲ委員ニ許諾スルモ何等益スル所ナカルベシ。原價計算ノ如キ一般生産者ノ行ハザル所ナルヲ以テナリ。

(三)今アル貨物ニ對シテ各國等シク完全ナル原價計算ヲ行フモノト假定スルモ各種生産費ヲ比較研究スルノ智識ニ乏シキガ爲メ其益スル所少ナカルベシ。

(四)各國ニ於ケル生産費ヲ知ルコトヲ得ルトスルモ更ニ一大困難アルヲ知ルベキナリ。即チ生産費ハ一國ニ於テ常ニ變動スルノミナラズ各國ニ於テ其變動甚シキガ如キ其一例ナリ

(五)上ノ如キ各種ノ事情ヲ明カニスルモ尙ホ其生産費ノミニテハ未ダ十分ナリト云フベカラズ。一般生産費ヲ關稅率制定ノ基礎トシテ之レヲ利用スルニハ先ヅ其價格ヲ定ムル製造業者ノ意向ヲ知ルコトヲ要スルノミナラズ。製造業者ハ其輸出價格ヲ生産費ヨリ低廉ナラシムルコトヲ欲セザルコトヲモ知ルコトヲ要ス。

(六)上述ノ各種ノ事實ヲ知ルモ金錢ヲ以テ價セル各種ノ統計ノ生産費ハヨク經濟事情ヲ永久ニ代表スルモノトナスベカラズ。金錢ヲ以テ示サレタル生産費ハ如何ナル場合ニ於テモ勞働及ビ資本ニヨル實際ノ原價ト一致スルモノニアラザレバナリ。

此等各種ノ理由ニヨリテ生産費主義ハ關稅率制定ノ基礎材料トシテ實際上不可能ナルノミナラズ論理上不確實ナルモノナリトノ結論ニ到着ス。

今以上ノ諸點ニツキ私見ヲ述ベンニ第一ノ困難ニツキテハ調査委員ノ既ニ經驗セシ所ニシテ實行上一大衝害タルハ論無シト雖モ委員ハ正確ナル生産費ノ査定方法ニツキ研究ヲ重キ其ノ歩ヲ進メツ、アルヲ以テ比較的正確ナル而モ公平無私ナル資料ヲ得ルコト必シモ困難ナリト云フ

ベカラズ。サレバ委員長エメリー教授ハ本年一月十一日ヨリ十三日ニ亘リワシントンニ開催サレタル第二回全國關稅調查委員會ニ於テ演說シ幾多ノ困難竝ニ衝害アルモ正確ナル生産費ヲ得ルコト決シテ至難ニアラザル旨ヲ述ベタルガ如キ其一證左ナリ。第二ノ點ニツキテ見ルニ調査局ノ研究ニヨリ部分的修正ヲ行ハハ其時其產業ニ適應シタル稅率ヲ得ベク產業ニ惡影響ヲ及スコトナク却テ良果ヲ收ムルコトヲ得ベシ。第三ノ點ハ論者ノ述ルガ如ク國ニヨリ異ナル關稅率ヲ設クルガ如キハ外國政府ノ反感ヲ招クニ相違ナキモ之レ理論上ノ杞憂ニ過ギズ。何トナレバ本主義ハ不當ニ高率ナル而モ不科學的ナル稅率ヲ矯正シテ各國ノ反感ヲ緩和セントスル主旨ナレバナリ。第四ノ點ニツキテモ同ジク理論上ノ杞憂ニ過ギズ。現行稅率ノ如キ地方的利害關係ニヨリテ左右セラレ負擔ノ公平ヲ缺キ消費者ノ負擔ヲ苛重ナラシムル稅率ヲ廢シテ真正保護主

議即チ科學的關稅ニヨリテ賦課負擔ノ公平ヲ圖ラザルベカラズ。第五ノ論旨中自由貿易論者ノ反對ハ固ヨリ其所ナルモ政治家及ビ被高保護者ノ反對アルガ爲メニ米國ニ於ケル關稅改正ノ實ヲ舉グルコト能ハザルヲ以テ宜シク専門家ノ調査ニ基キテ眞正保護主義ヲ決行スルコトヲ要ス保護ノ利益ノ割當ハ各種利害關係者ノ左右スベキモノニアラズシテ公平均等ニ決定セラレザルベカラズ。經濟上一大問題ヲ政治上ノ問題トナスガ如キコトアルベカラズ。第六ノ論旨ノ如キ利潤ハ全然専門家ノ確定スルガ如キ嫌アルモ之レニヨリテ各當業者ノ不利益ヲ貪ル米國「トラスト」ノ跋扈ヲ幾分除去セントスルニアリ。之レ經濟上ノ弱者タル一般消費者ノ利益ハ確保セラ、所以ナレバ一部論者ノ反對ノ如キ寧ロ顧ルニ足ラズ。

上ノ如ク眞正保護主義ヲ貫徹センニハ理論上實際上幾多ノ困難アリテ其ノ成效ノ如キ到底期

待シ得ベカラザルモ唯從來ノ如キ關稅案作成方法ノ弊害ヲ認メ輿論ハ全ク永久の關稅調查局ヲ設置スルノ機運ニ逢着セルノ一事ニ大ニ留意モザルベカラズ。即チ米國下院ニ於テ本年二月下旬永久の無偏無黨ノ關稅調查局 (permanent non-partisan Tariff Commission) ノ設立ニ關スル法案

ノ米國下院ヲ通過シタルコト之レナリ。

下院ノ可決セル法案ニヨレバ二ツノ案ノ合成ニシテ一ヲロングオース案一ヲダルツエル案トス。該調查局ハ委員五名ヨリ成リ大統領之レヲ任免ス。而シテ同局ハ毫モ政治上ノ變動ニ關係スルコトナク關稅ニ關スル總テノ事項ヲ調査スルヲ以テ其ノ職務トナス。或ハ特ニ生産費ノミナラズ關稅率ノ立案上又ハ關稅行政上大統領又ハ政府當局者ノ幫助ニ必要ナル他ノ總テノ事實ヲ蒐集スベク或ハ上下兩院ノ命令アル時ハ何時タリトモ其實事ヲ調査スベク或ハ大統領ノ指揮ニ從ツテ諸外國ノ關稅制度若クハ獎勵金等ノ影

響ニツキ報告ヲナスベキナリ。個人又ハ團體ヨリ得タル材料ハ之ヲ保全シ他ノ競爭者ノ使用ニ供スルコトヲ許サズ。而シテ同局ハ參考證人ヲ召喚シ必要ナル參考資料ヲ提出セシムル等ノ十分ナル權力ヲ有ス。

今本案ト既設ノ調查局ト比較センニ其相違ハ(第一)政黨ノ變動ニ關係ナキコト(第二)永久のナルコト(第三)十分ナル權力ヲ有スルコト等ノ三點ニ在リ。故ニ此ノ如キ法案ニシテ上院ヲ通過シ法律トナルニ至ラバ建國以來ノ米國ノ採用セル關稅制度ニ一大變化ヲ與ヘ米國關稅改正問題ニ一大光明ヲ與フルモノト云フベキナリ。故ニ若シ此ノ如キ調查局ニヨリテ修正又ハ改正ヲ行ハンニハ左ノ四大效果ヲ收ムルコトヲ得ベシ

(第一)現行ノ偶然的ナル保護關稅ヲ真正保護主義ニ基ケル科學的關稅トナシ得ベキコト。

(第二)「トラスト」ノ獨占の勢力ヲ幾分制抑シ得ベキコト。

(第三)關稅改正方法ニ伴フ幾多ノ弊害ヲ輕減シ得ベキコト。

(第四)關稅改正方法ニ伴フベキ經濟界ノ動搖ニ對スル杞憂ヲ一掃シ得ベキコト。

此等ノ效果ヲ達セバ米國關稅改正ノ理想ハ之レヲ實現スルコトヲ得ベシ。サレド其先決問題タル永久の關稅調查局設立案ガ將來米國議會ヲ通過スルカ否カハ疑問ニシテ之レガ解決ヲ與フルモノハ獨リ時日アルノミ。

本年三月四日關稅調查局ノ經費トシテ四拾五萬圓支出ノ件ハ議會ヲ通過セルモ同局ヲシテ永久のナラシムベキ上ノ提案ハ上院ニ於テ頗ル議論ヲ來シ賛否說交々起リタルモ遂ニ可決ヲ見ルコトナクシテ終リ同日第六十一議會ハ閉鎖サレタリ。然レドモ大統領ハ既說ノ調查局ノ委員トシテ更ニ二名ヲ増加セルハ最モ注意ヲ要スベキモノナリ。殊ニバージニア經濟學教授バージ氏及前下院議員ホーワード氏ノ如キ自由貿易論者

(民主黨)ノ任命ヲ見タルハ假令上院ニ於テ該案ヲ認メザリシモ實質ニ於テ一時的の無偏無黨ノ關稅調查局ノ設立セラレタルヲ表明スルモノナリ余輩ハ茲ニ擲筆シテ將來米國ニ於テ永久のノ關稅調查局ノ設立ヲ見ルニ至ルヤ否ヤヲ觀望セントス。米國關稅改正問題ハ前途益々多望ナリト云ツベシ (完結)

ユダヤ人ト經濟生活 (其四)

商學士 大西猪之介

(W. Sombart, Die Juden und das Wirtschaftsleben.
Leipzig, 1911 ノ梗概)

第二編 資本制ニ對スル猶太人ノ

能力 (原著一八三
一三三四頁)

第八章 問題 (一八三 一八五頁)

『近代の國民經濟建設上猶太人ノ參與非常ニ大

ナルヲ上來縷述シタル吾人ハ茲ニ一步進ンデ其理由ヲ説明セントスルノデアアル。然ラバ吾人ハ如何ナル事ニ對スル猶太人ノ能力ヲ證明セントスルノデアアルカ、又猶太人ハ何ニ依テ此ノ如キ能力ヲ有シ得タト證明セントスルノデアアルカ。『猶太人ノ何事ニ對スル能力ヲ證明セント欲スルカ。曰ク近代の世界商業、近代の金融、取引所及ビ經濟生活ノ一切ノ商化等ヲ或ハ創設シ又ハ進歩セシメ、自由貿易ト自由競争トヲ始メ、經濟生活ニ近代的精神ヲ擴メタル事ニ對スル能力デアアル。之ヲ一言ニ盡セバ資本制ニ對スル能力デアアル。是等ノ總テノ事實ハ如何ニ内的ニ相關係セルカ、マタ如何ニ資本制組織ノ結構中ニ綜合セラル、カ、第九章ニ於テ是ヲ説明シヤウト思フ。

『次ニ何ニ依テ人ハ或ル仕事ヲ爲シ終ルヲ得ルカ。其ニハ種々ノ區別ガアル。假ニ或人ガ溺者ヲ救フ時ニ其ハ或ハ端舟ガ繫イデアアル河岸ニ彼